

カラ仁ノ道ニコモリ申スナリ、

〔聖教要錄中〕仁

仁者人之所以爲人克己復禮也、天地以元而行、天下以仁而立、顏子問仁、夫子以綱目答之、仁之全體大用盡、仁者兼五常之言、聖人之教以仁爲極處、漢唐儒生以仁作愛字、其說不及、至宋以仁爲性、太高尚也、共不知聖人之仁、漢唐之蔽少、宋明之蔽甚、仁之解聖人詳之、仁對義而謂、則爲愛惡之愛、仁因義而行、義因仁立、仁義不可支離、人之情愛惡耳、是自然之情也、仁義者愛惡之中節也、

〔五常訓〕仁

人の禽獸にことなるは、仁あるを以てなり、五常五倫、百行萬善、皆仁よりいづ、故に仁の理、至りて尊く、至りて大なり、わがともがら凡愚のしりがたきことなれば、たやすくはんこと、いとかたはらいたくこそきこゆべけれ。○中略 中庸に曰、仁者人也、親親爲大、孟子も亦曰、仁也者人也、又曰、仁人之心也と、言ふ意は、天地の恵み大にして、よく萬物を生じ給ふ、其の理を生理と云ふ、生理とは天理の生々して、よく物を生ずるを云ふ、此の生理を人の身に生れつきたる故に、人の身に恵みの心胸中にみちくして、よく物をあはれむ、是を以て人の身、即是仁なり、故に仁者人也と説きたまへり。○中略 周子は、德愛を仁と云ふといへり、愛はあはれむなり、仁は心の徳にて、人をあはれむを云ふ、愛を以て仁をとくは、是仁の大用をとけり。○中略 程子は、天地の生意を以て仁をとけり、生意とは、天地の理、生々して物を生ずる意を云ふ、其の生意の人に生れつきたるを仁と云ふ、天にありては、生と云ひ、又元と云ふ、人いうけては、仁と云ふ、天にあり人にありて、其の名はかはれども、其の理は一なり。○中略 朱子曰、仁心之徳、愛之理、心の徳とは、徳は得るなり。○中略 愛の理とは、心の徳のいまだ外にあらはれざる内に、おのづから物をあはれむ理をふくめるを云ふ。○中略 心之徳愛之理の六字、朱子はじめて發明せる所、後の學者に功あり、是周子の徳愛を曰仁に本づけり、或曰、